

平成 23 年 8 月 3 日

各 位

会 社 名 株式会社エイアンドティー
 代表者の役職氏名 代表取締役社長 礒 村 健 二
 (コード番号：6722)
 問 い 合 わ せ 先 常 務 取 締 役 前 原 喬
 電 話 番 号 0 4 5 - 4 4 0 - 5 8 1 0 (代)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 12 月期(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想について、平成 23 年 2 月 8 日付「平成 22 年 12 月期 決算短信 (非連結)」にて発表いたしました、平成 23 年 12 月期 (平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日) の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想額を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 23 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想の修正 (平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日)
 (単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	4,120	360	350	192	30 円 77 銭
今 回 修 正 (B)	3,695	332	324	160	25 円 57 銭
増 減 額 (B-A)	△ 424	△ 27	△ 25	△ 32	—
増 減 率 (%)	△ 10.3%	△ 7.6%	△ 7.3%	△ 16.9%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 平成 22 年 12 月期第 2 四半期	3,837	419	415	211	33 円 74 銭

2. 第 2 四半期累計期間業績予想修正の理由

平成 23 年 12 月期の第 2 四半期累計期間において、売上高は OEM 向けの検体検査装置、臨床検査試薬、消耗品等の販売は堅調に推移しており、約 35 百万円増加する見込みであります。一方、臨床検査情報システム、検体検査自動化システムは、上期見込んでいた稼働案件が、一部震災の影響等により下期に延期となったことから、約 459 百万円減少する見込みであります。その結果、前回の予想より約 424 百万円減少する見込みであります。

利益面においては、上述の臨床検査情報システム、検体検査自動化システムの稼働延期により、減収減益となったものの、販売費及び一般管理費の削減 (約 111 百万円) に努めた結果、営業利益は約 27 百万円、経常利益は約 25 百万円の減少にとどまる見込みであります。また、特別損失として、投資有価証券評価損約 26 百万円を計上する見込みであります。その結果、四半期純利益は約 32 百万円減少する見込みであります。

3. 平成 23 年 12 月期通期業績予想の修正（平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想（A）	8,000	520	500	275	43円95銭
今回修正（B）	8,000	620	600	313	50円02銭
増減額（B－A）	—	100	100	38	—
増減率（％）	—	19.2%	20.0%	13.8%	—
（ご参考）前期実績 平成 22 年 12 月期	7,862	723	707	294	47円06銭

4. 通期業績予想修正の理由

通期の業績予想につきましては、OEM 向けの検体検査装置、臨床検査試薬、消耗品等は上期同様、堅調に推移すると見込んでおります。また、上期延期となった臨床検査情報システム、検体検査自動化システムの大型案件は一部の来期キャリアを除き、下期に稼働することが見込まれていることから、売上高については前回の予想から修正はございません。

利益面においては、各製品原価の低減、販売費及び一般管理費の削減に継続して取り組むことにより、営業利益は約 100 百万円、経常利益は約 100 百万円増加する見込みであります。その結果、当期純利益は約 38 百万円増加する見込みであります。

以上

（注）上記の業績見通しにつきましては、現時点で得られた情報に基づいて作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。